

2010年人間科学学部（理系）第5問

5 四面体OABCにおいて、線分OAを2:1に内分する点をP、線分OBを3:1に内分する点をQ、線分BCを4:1に内分する点をRとする。この四面体を3点P、Q、Rを通る平面で切り、この平面が線分ACと交わる点をSとすると、線分の長さの比AS:SCを求めることを考えよう。

点Sは3点P、Q、Rを通る平面上にあるから、定数 s, t, u を用いて、

$$\vec{OS} = s\vec{OP} + t\vec{OQ} + u\vec{OR} \quad (s + t + u = 1)$$

と書くことができる。ここで、 $\vec{OR} = \frac{\boxed{\text{ス}}\vec{OB} + \boxed{\text{セ}}\vec{OC}}{\boxed{\text{ソ}}}$ であるから、 \vec{OS} は $\vec{OA}, \vec{OB}, \vec{OC}$ それぞれの定数倍の和として表すことができる。そこで、 $\vec{OA}, \vec{OB}, \vec{OC}$ の係数をそれぞれ定数 s', t', u' とおくことにより

$$\vec{OS} = s'\vec{OA} + t'\vec{OB} + u'\vec{OC} \quad (18s' + 16t' + 11u' = \boxed{\text{タ}})$$

と書くことができる。ところが、点Sは線分AC上にあることから、 s', t', u' を求めることができ、AS:SC = $\boxed{\text{チ}}$: $\boxed{\text{ツ}}$ であることがわかる。ただし、 $\boxed{\text{ソ}}, \boxed{\text{チ}}, \boxed{\text{ツ}}$ はできる限り小さい自然数で答えること。